

# Significance of hypovascular lesions on dynamic CT and/or EOB-enhanced MRI in patients with hepatocellular carcinoma

メタデータ	言語: English 出版者: 公開日: 2017-03-20 キーワード: 作成者: 行田, 悠 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://jair.repo.nii.ac.jp/records/2002027">https://jair.repo.nii.ac.jp/records/2002027</a>

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 甲第 1858 号

Natural course and clinical implication of hypovascular lesions on dynamic CT and/or Gd-EOB-DTPA-enhanced MRI detected during the diagnosis of hepatocellular carcinoma

(肝細胞癌に対する肝切除後患者におけるダイナミック CT と EOB-MRI における乏血性腫瘍の自然転帰と臨床的意義)

行田 悠 (ぎょうだ ゆう)

博士 (医学)

#### 論文審査結果の要旨

本論文は、肝細胞癌に対し当院で肝切除を受けた患者のうち EOB-MRI とダイナミック CT を施行した 111 人を対象にして術前に認められた乏血性腫瘍についての術後の自然転帰を観察した非介入後ろ向き研究である。

今回の研究により EOB-MRI はダイナミック CT よりも乏血性腫瘍の検出能力に優れていること、EOB-MRI でのみ認められる乏血性腫瘍はダイナミック CT でも認められる乏血性腫瘍より有意差はないが癌化率が低い傾向にあったこと、乏血性腫瘍は 10 mm 以上で癌化率が高い傾向にあること、術後経過観察中の乏血性腫瘍の癌化率と乏血性腫瘍以外からの肝細胞癌の新規発生率を患者毎で比較した結果は有意差を認めなかったが術後 3 年でそれぞれ 62.2% と 55% といずれも高率であったこと、手術時に乏血性腫瘍を認めた患者は認めなかった患者と比較し肝細胞癌の発生率が高い傾向にあったことを示している。

それらの結果より乏血性腫瘍検出における EOB-MRI のダイナミック CT に対する優位性を示した点、乏血性腫瘍の大きさによる癌化率の違い、EOB-MRI とダイナミック CT で描出される乏血性腫瘍の転帰と乏血性腫瘍を有する患者の転帰を明らかにしたことで肝細胞癌の手術時における乏血性腫瘍の扱いについて一定の見解を示した点、以上において意義があると考えられる。

よって、本論文は博士 (医学) の学位を授与するに値するものと判定した。